

# 宗教の平面的考察

阿部 現亮

輒近大抵ものゝ考察が心理學的にそして社會學的に傾いてきたことは争はれぬ事である。宗教も一つの社會的事象として取扱はれるものとすれば、各個人の宗教的觀念や、其の人が屬する社會の間に行はるゝ宗教團體やの研究も、今まで時間的に長く變遷を眺めた歴史的考究法の一助として、平面的にまた部分的にも眺めやうとするのである。私は今此處で宗教の定義などもち出して議論することは避けたいが、たゞ憶面なく云ふとすれば、此處に取扱はむとするものは、各人の抱ける宗教意識が二人以上相投影し合ひ、相親和することによつて一つの社會圈を造りたる場合のものをいふ。即ち一つの宗教的觀念や事象を基調として二人以上の人々が一つの團體を造りたるものを宗教といひたい。換言すれば心と心との聯合をなさざるものは未だ宗教といはずして宗教的意識といつておきたいのである。

偕てこういふ風に宗教を扱ふとしてみると、慥に此の宗教團體を統括するものが何であるとしても、哲理的な教義であつても、實踐的な苦行であつても、乃至は魔術的な奇蹟であつても、要は此

の集團を測定するのには教會とか寺院とか名づくべき量目を以つてせねばならぬ。歴史的に宗教の消長を知りうるものは其の時代の教會が擴張したか縮小したかによつて量らねばならぬ。尤も其の教會の勢力の如何は主として中心をなす人格者の出現によるのであるが、また教義や法規の深度にも與つて力があると思はれる。そして其の人格を中心としてか、その教義を信仰してか、夫れ等の教會を形造る人々の數は宗教の重大なる要素である。されば宗教を平面的に眺むる時には必ず此等の人々によつて動き出さるゝ總ての諸點を看過してはならない。如何に微細なつまらない事象でも注目研究しなくてはならない。實に宗教を社會的集團であることを見ることによつて從來多くの人々によつて取り扱はれた觀方の外に、また宗教の社會的能力といふ方面も放棄することは出来ない。

宗教が社會的事象として觀らるゝ以上、他の種々の事象と同じく、其の職能や能率を測定するには統計を以つてすることは差支なき様に思はれる。然し宗教の統計をとるといふことは不可能であるからむしろ數字の上に測定すべきものでないといふ人もある。宗教統計なるものには或る不相應なる過分の而も重要ならざる事項が從屬することは有り勝ちだともいはれてゐる。神の福音を興ふるには道徳的な精神力を以てすべきであつて、決して數を以て表はしたる書籍を以てすべきものでないといふ人もある。或る宗派が漸次加はり行く數字上の發展に、眞實優勢に進めるものであると有頂天になつてゐるとしても、實際は其の宗教の潜勢力や本質は漸次光明を失ひつゝある危険に

類しているのだといふ聲もきく。成程宗教の事象を充分に計算するのに算術を以てすることは巧妙なることではない。全世界に行き互れる種々の宗教を數へ上げて、其の冷却せるものに對しては源泉を尋ねて嘗てありし生命の活動とその美點とを蒐集し、これに清鮮なる芳香と奏樂とを以て満たさねばならぬ。さればとてその得たるものが確實なるものではない。たゞ至極近似値まで數へ上げたといふに止まる。斯うした不鮮明な不確實なものを殊更に數字の上に騰寫する必要があらうかともいへよう。いかにも宗教をば社交によつて陰に傳播しやうとか、意見を戦はして感化に力めやうとか、文學などの間接的な影響によつて語り合はうとする人々には、宗教の永久性や重要項目を教會といへる形式の中には見出したくないに違ひない。然しながら宗教の積極的要素は即ち持續性や影響や勢力の如きものにあつては、教會なる組織立てられたる機關に依存しなくてはならないからどうしても數字に於ける平面的な收獲を以て一つの基調を作らうとすることも無意義ではなからうと思ふ。既に統計學の進歩は道德的統計や社會的統計や商業的統計や及び政治的統計の如きに於て明白なる意義を有してゐる。夫々彼等の重要な事項は統計の研究によりて明瞭なる價值を高めているのである。尤も統計をとることは實に困難なものに違ひない。動もすれば其の結果は事實の見方や數の小さき誤算によつて反つて大なる間違を生起し易いものである。でも一方科學的性質の純眞なる證左を得ることが出来る。即ち豫示することも可能である。大體科學といふものが一つの法

則の確知を得べきものとすれば、科學的理法によつて或る事物の結果をも豫測出来ることゝなるが、體に統計によるものは物の眞髓を推量によつて明示することゝなる。例へば一定年時の出生と死亡との平均數により其の國の人口増率を示すことによつて、其の年次の食糧調節を行ふことが出来るのである。Bussel の M. Bertillon の發表によると、世の中の社交的、家庭的又は身體的な道德問題に於ても、夫れく具體的な要素を蒐集して統計的に分類し分析することによりて、結婚といふものは長壽と道德とはななくてかなわぬものであるといつてゐる。即ち結婚せる人々は、自殺、闇殺、竊盜、不衛生をすることが少いといふ結果を示してゐる、斯くの如く數字上に顯はれたる形式からでも道德的現象を判斷し推察しうるのであるが、また數字にあらはされたる形式よりして宗教的事象が判斷せられぬとはいへぬ。現代の科學は物質的な力を測定するのみならず、尙捕捉しがたき因素さへも實驗の目的とされてゐる。即ち蒸氣、瓦斯、熱、光、大氣、の如きものをさへ正確に記載せんとしてゐるではないか。又以て道德的な現象を蒐集し分類する統計を表示しうるまでに進歩してゐるのである。遂に此の根底よりして普遍化と演繹とを構成して道德的な社會的な日々の問題を決定せんとしてゐるのである。然らば精神的な宗教の領分と雖いまだ隱閉せられて觸るゝことを許されぬ筈はない。夫れ故に宗教を動かし支配する力をば測定することは不可能ではない。精神的なものをも鮮明に數字上に分析し表現し箇々の型に充當して、その多様な深度や速度を測り、

その宗教の通路に沿ひたる水準を標示しうるものである。近時何れの國にも國勢調査が行はれるにつれて、各宗教團體も年報を發行しつゝあるが、年々一層の注意を以て正確を期しているから、各國民の宗教的生活の變化しゆく状態を確實に表示せられてきた。統計調査に従ふことは宗教の差別を要せぬ。また偶然に附屬する要素に對して決定的な吟味を與ふる必要もない。たゞ適宜なる注意を拂つて公平無私に分析し羅列するべきである。そして夫等のものから生れ出づる結論によつて宗教状態に決定を置くことゝなるのである。

以上述べたることによつて先づ宗教にも統計的な眺め方が或る有利な批判を下す一助ともなるべきものだといふとす。然し遠き昔より續き來つた古き形體を有する宗教にあつて、佛教とか基督教とかの如き一大宗教であつても、現今はとにかく過去よりの變遷を統計に示すことは困難でもありまた不鮮明なことである。一例を基督教にとつて眺めて見やう。基督教の使徒の時代は總ての點に於ては攻撃的衝動即ち力一杯の活動であつたとして、基督降臨祭の時には三千の改宗者を出した。第一世紀末には五十萬に及び第三世紀末には五百萬を數へたといふ。ルーテルの宗教改革も最初は一つは教會の改革であり、一つは精神上的の革命とも目すべきものであつたけれども、間もなく大なる政治的改革の起ることによつて全く判別しがたきものになつた。ウエスリアンの運動が起つたのは千七百三十九年であつた。其の世紀末にありては四百五十人の僧侶と十二萬の信者とを英國

内に有したといつてゐる。然しながら此等の數字によつて明確を期することも出来ぬし、此れによつて直ちに進化を斷するわけにはゆかぬ。然し若し北米合衆國に於ける現代の統計によるとすれば先づ殆ど合理的に算出さるゝものと豫期しうべきものである。それは年鑑や各宗派の年報や又は合衆國の人口調査等に於ては、全く數年間の廣大なる苦心の研究の結晶として、教會の代表者達と數多の凝議の結果により作り得たものである。依つて此の結果ではかなり注意深き辨別や鑑別やが施されてゐて、附隨的因素や形容的事象に對しては適當な區別を與へ、異同比較としては各期間の影響の大なるものを巧に撰擇している。

然しながら宗教の擴大につきて前世紀に於けるものと比較することは仲々困難である。元來地上の全人口に對する信頼すべき測定數なるものは、現今に至るまで未だ見出されざる處である。M. de Bruin (1826) の測定に従へば、六億四千二百萬と稱へ、M. Adrien Baldi (1848) の稱ふる處では、七億三千七百萬と測定している。現代は明に十億を突破しているものであるが、但し此等の測量は不備のものであることは言を俟たぬ。僅に推定數よりも稍よろしきものと云ふに止まる。無論充分に満足しうべき精細なる數は存しえざるものである。されど Schen 教授の言によれば「統計學の進歩は地球上の人口を probability を以つて測定しうる。それは現代の科學によつて考へらるゝ如く歐洲の何れの國にありても、只トルコを除外して、時々人口調査や其他國定によれる調査をなす様

になつたこれによつて確實性を有する人口數を示すに至つたのである。國家として人口調査をせざる國々にありては、住民に關する検査については、博學なる旅行者によりて早き時代より地理學の仕事として、とにかく信任しうべきものまでに至つてゐる。」と

先づ人口調査統計がかなり正密なる實數を表示しうるまでに進める現代にありては、合衆國や英國や蘇蘭土の如く宗教的宗派について、會員や信徒の實數や、教會の數や、牧師の數を公表してゐない國々であつても、たしかに此の人口調査統計によつて宗教的な分類をもなしうるものである。斯くして總ての國々の人々を國家の國勢調査によつて、彼等が宗教的に如何なる心持ちを抱いてゐるかも分類しうるのである。即ち自分が無神論者であると公言する人達のあるのを觀察することもまた面白いことである。

以上述ぶるが如く宗教全般に對する統計はたしかに有神論者と無神論者とまた宗教を知らざる者に分つことに始まる。例へばフランスに於ては1891年に7684906の人々が無宗教なるものとして指示されたが、それは實に人口38000000に對してである。またカナダにあつては1881年の國勢調査に従ふと全人口は4324810である中に於て2634だけが無宗教者と見做されるも、自ら無神論者であると公言したのも一人もなしといつてゐる。斯る統計より出發して各宗教團體の實數を測ることに努力せられつゝ最近似値にまで到達してゐる。即ち各團體が有する年鑑はたしかに其宗團自體の

職能を明にしうるものといへるのである。

從來宗教を比較するに於てはたゞ彼此史的に眺めるものが多い様である。兩者の教義の分れ目や儀禮の相違やについての精細に比較せられてゐるけれども、心理的に見たる強弱兩點を比較したり社會的に見たる職能々率の高低を比較することに於ては餘り省みられなかつた様である。たしかに宗教團體の發達や擴張については、夫れづれの宗教團體の集團意識について優越點と劣弱點とを明かにしてゐることは無駄な事ではない。宗教を心理學的に研究する人々にあつても、單に個人の宗教意識をのみ對象として、其の信仰過程の調査に甘んぜずして、一般民衆の宗教に對する信仰より更に彼等の欲求してゐる宗教集團への過程を考察しなくてはならない。そして宗教集團心理の分類せられたる統計は、きつと現代人心の宗教的慾望の趨向を察知しうる材料を構成するであらう。例へば人間の性情について彼等の所屬の宗教團體の特異の點を三つに分類してゐることが出来ると思ふ。

(1) 行爲型。此の分類に入るものは自由に釋放せらるゝよりも、むしろ一定の行爲をなすべく充當せらるゝことを喜ぶものであるから、自ら創造思考を有することなくして、他を模倣するものである。斯る人々の宗教的信念は自ら満足しうる宗教を求むるといふよりも、既に存する宗教の教義を其の儘とり入れて、何等之れに對して自己の批判を施すこともなく、其儀禮に對しても何等改廢



を加へようとするものでない。古典主義ともいふべき人達の集まりうるものとなる。

(2) 經驗型。此の型の分類に入るものは感情に於てたしかに他の人々より優秀である。自己の感覺や感情に訴へて満足しうる程度のもを慾求するのであるから、宗教としては動もすると神祕的ものに傾かねば承知しえられない人々も此れに屬するのである。

(3) 理智型。此の型に入るものは總て思考的な論理的な満足を與へぬものは取ることを拒むのである。されば宗教に對しても哲學的な見地から眺めうるものに從屬しやうとする人々である。

次に現代の宗教に對する慾望は他の文藝諸般の進歩と共に、種々なる點に於て慾求せらるゝ處が多いが、社會的機能に於て活動すべく豫測せられてゐる。即ち現代人の生活に關する諸點に就いても宗教團體の指導後援を有すべきものと見られてゐる。元來政治教育より文藝に至るまで何れの國にありても、宗教團體または宗教團體の指導者の手によりて行はれたものであつて、決して新しき要求ではない。社會一般に對する宗教團體の活動につきては、他の諸般の施設が合理的に組織的に且つ能率的にと改良せられて行くのであるから、また宗教團體の組織自體より運動へ一般の人々の慾求に伴ふ改廢も行はるゝことゝなる。宗教團體が社會的事業に傾注することの可否については。今此處には議論を避けることゝして、現代の宗教團體には著しき特有物と見做さねばならぬ。斯く

の如く宗教團體をば教義や儀禮やを主として、組織及び財政を考察し 更に社會敎化や施設の運動に至るまでを一纏に研究しなければならぬが、其の方法としては團員の心的傾向を統計に表示し、此を種々の分類に區分することが、確に宗教團體を平面的に考察しうる便法である。即ち一つの宗教團體を構成する團員は重大なる因素をなすものであるから、團員の心理及び行爲が重要なものと見るべきである。

先づ宗教團體にありては團員の年齢別や性別や及び職業別による分類統計を基本として、次いで其の敎養、性格、收入、嗜好、社交、等に至るまで區々記入せられたるものを作製して、年に三回又は年に一度、此のカードによれる消長數を表示したるものによつて、其の團體全體の歸驕する處を察知し得ることゝするのである。

先づ眞に宗教を慾求し批判しうる年齢に達せざる以前に於ても、即ち兒童期や少年期にありても宗教團體はたへず此等幼少の者に對して宗教的環境の中に成育することが必要であるとせられて、現今では宗教々育の發端をばいまだ完全に話すことの出來ぬ幼童よりしてゐる。彼等の幼稚園時代や小學校時代に於ても、所謂日曜學校の運動は目覺しいものである。殊に近頃は青年期成年期に及んでも、教會々員として取扱ふことゝ同時に日曜學校の延長とみて成年級を編成している。斯くて教會の記録には先づ年齢數を表示することゝなる。次に團員の性が異なることによりて注意しなく

てはならぬ。女性に常に男性に比して感受性に富んで居るだけに、宗教的慾求はより熾盛である。依つて宗教的團體の一員としては慥に男性の一員より團體の強き要素を形造つてゐる。過去に於ては、或る宗教に於ては現代でも、女性は男性より遙に下位に眺められて、宗教團體から除外せられた事もあつた。女子をして宗教に携はらしむることは神威を瀆すものとして斥けられていた。然し輓近のことではあるが、女性が人として開放せられ男子と同じき取扱を受くる様になつてからは、宗教團體に於ても女性の加入を拒まず、目今は女子の團員がむしろ男子よりも力あるものとせられてきた。これは男子は常に外的に活動して生活の爲めに寧白なきに反し、女子は家政や育児の内的に生活を守るから、従つて男子より以上に宗教團體にも加入し活動しうるわけである。

次に職業上の分類は團員の教養と収入とに比例して、都會と農村の教會の盛衰を明示しうるものである。現代の宗教團體の趨向は徒に僧侶牧師の手によりてのみ指示せらるゝものでなく、團員自らの運轉にも與らしめねばならぬ。依つて團體の活動については、彼等の収入に應じての醜金に俟つ處も大である。彼等團員が其の派の宗派に屬する以外になほ如何なる社會的集團に關係しつゝあるかは、即ち彼等の社會的位置や背景は明示しておくことが必要であらう。

以上述べたる各教會々員のリストの分類は、直ちに教會によつて表示せられるべきである。近時國勢調査の施行せられるに眞似て、宗教團體も國勢調査を敢行しているが、なほ各細別に互つたも

のを見出すことは困難である。然し現在に於ては基督教に於ける各宗派に於ては、其の派の活動を年鑑や年報に報告しているが、かゝるものを基本として作られたる統計分類に従へる宗教團體の趨向は儘に心理學的な社會學的な考究法として好材料となるものと思はれる。私はかゝる方面からして研究することも現代人の宗教に對する慾望や、宗教團體に對する考へ方などを取扱ふ方法であるといふ事に對して何等の價値もないと應酬せらるゝ人もあらうと豫測している。然し私は或る社會象研究會に出席して、其の研究會員の一員が數ヶ月に互つて熱心に研究した處では、各宗派の日曜説教を主題として考察したものであつたが、集會の時間。プログラム。説教の題材及び時間、會集の人數。此等のものを比較分類して得たる結論よりして如何なる集會の司會方法が都會の人々にまた農村の人々の欲する處なるかを決定したものであつた。以上の事柄から宗教に對する平面的な考察も或る程度までは可能であると思はれる。